



■	説教	福音は信じる者にとって神の力	…… 渡辺 輝夫 …… 1
■	教会の課題	主が再び来られるのを待ち望む中会 —一つであろうとする祈りと信頼が 一つであるという事実を生む—	…… 齋藤 修 …… 2
■	旧約聖書に聴く	「コヘレトの言う運命」	…… 片野安久利 …… 3
■	信仰問答を学ぶ	「教会を活かす聖霊」(2) —聖霊と歴史的教会—	…… 多田 滉 …… 4
■	教会、この地とともに	⑦ 折尾伝道所 あなたの道を主に任せよ	…… 北村 千尋 …… 5
■	み言葉に照らされて	私の祈り	…… 菊池 和子 …… 6
■	さんびかに生かされて	さんびかと私	…… 瓜谷 静子 …… 6
■	こいのにあ	秋田教会に遣わされて	…… 鈴木 攻平 …… 7
■		修養会を終えて	…… 岡 哲子 …… 8
■		教会ニュース	…… 8



福音は信じる者にとって神の力

わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。

（ローマの信徒への手紙1章16－17節）

わた なべ てる お
渡 辺 輝 夫

この聖句はローマ書全体の主題だ、と多くの註解者が述べ、教会改革の口火を切ることになる福音再発見の言葉としてあまりにも有名です。厳粛な神の前に震撼する個人が福音において罪赦され義とされる。しかし、わたしたちはいま、この言葉を、ナザレのイエスに焦点をあて、社会的拡がりを意識しながら黙想してみたいと思います。

＊

「わたしは福音を恥としない」 並々ならぬかれの想いが伝わってきます。著者パウロの生きた、かの時代の状況が反映されていると言えましょう。片や、大帝国ローマの支配権力、そしてギリシャの豊かな文化、それに比べ、ユダヤの片隅で起こったナザレのイエス事件、その何と小さなことか。パウロならずとも萎縮してしまうにちがいありません。

ところが、かれは醒めています。広くこの世界を見渡し、その中で、十字架に極まる、ナザレのイエスのこの福音に、生きるすべてを置いているなど、愚かでなんの魅力があるか、と言われたとしても。なぜか。福音はわたしたちにとって自明ではないのです。信じて始めて「力」になるのですから。

＊

「神の義は、その福音の中に」（口語訳） 義それを「公平」と言い換えてみましょう。なぜなら「義」とは法廷概念ではありません。

「慈しみとまことは出会い
正義と平和は口づけし」（詩編85:11）
神の義は平和や公平の世界をわたしたちに想起させます。いったい、公平とはどういうことか。一方が

贅沢三昧ぜいたくさんまいの生活をしているのに、他方がその日暮らしというのであれば、同じものを等分するのが公平なやり方ではありません。これではいつまでも不公平です。神さまは一方が苦しんでいるのなら、そのほうへ肩入れして味方する。これが神の公平というものでしょう。

神は、それを「福音」のなかに明らかにされた、とパウロは語ります。神はナザレのイエスにおいて、一方に肩入れすることによって神の義（公平）を回復なさいました。いままで「罪人」としてユダヤの宗教的・経済的特権階級から排除されてきた者たちに光をあて、あなたがたこそ神の国の主人公！と宣言されたのがあのイエスその方ではなかったでしょうか。

＊

「信じる者にとって神の力」 これはわたしたちの現実を越えています。だから「信仰」が求められるのです。わたしたちの現実是不公平です。富む者は日々豊かになるのに、きょう喰うことに汲々としているわたしたちの社会、数をたのみとしてゴリ押しする政治の横暴、マイノリティへの民族差別、性差別、ヘイト犯罪などなど。しかし、信じる者には救いをもたらす神の力（デュナミス）、ダイナマイトです。古く、硬い岩盤を打ち砕き、そこに新しく公平な世界をのぞみ見させます。その力こそがこの信仰、ナザレのイエスへの信仰ではないでしょうか。ですからわたしたちは意気阻喪いきそまうしません。それはきっとわたしたちに未来を先取りして生きる力を与えることでしょう。（夕張伝道所牧師）